

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4091600124		
法人名	有限会社 聚楽臺		
事業所名	グループホーム じゅらくだい		
所在地 (電話番号)	久留米市野中町914 (電話) 0942-48-3160		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成19年8月22日	評価確定日	平成19年9月25日

【情報提供票より】(19年7月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 14 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 8.5 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設(<input checked="" type="checkbox"/> 単独)	新築(<input checked="" type="checkbox"/> 改築)
建物構造	鉄筋スレート葺 造り 3 階建ての 2 階 ~ 3 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,500 円	その他の経費(月額)	1,200 円	
敷金	有() 円 (<input checked="" type="checkbox"/> 無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(<input checked="" type="checkbox"/> 有) 100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(<input checked="" type="checkbox"/> 有) 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (7月31日現在)

利用者人数	13 名	男性	4 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.7 歳	最低	71 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小坪内科・消化器科、小坪歯科、新古賀病院、聖マリア病院、はるり鍼灸整骨院
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

街のまんなかにあるこの施設では、「元気に過ごす住まい」の理念のもと、高齢者が生き生きとその人らしい生活を送っている。この施設は創設者の介護の体験からグループホームの必要性を感じられ、会社のフロアを改装し設立された施設で、その想いは現在のスタッフにも受け継がれ、熱心な介護がなされている。都会でありながら、地域との関わりは深く、入居者は地域住民の一員として生活し、街中である立地を生かし、買い物や外出にも頻繁に出かけている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回初回の評価。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の項目については職員全員でチェックし、真剣に取り組んでいる。書類の提示や室内の調査など快く提示される。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は定期的に行われ、そこで出された意見については、次回の会議までに解決できるように対応している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) ご家族来所時や運営推進会議、家族会で意見を聞き、出された意見に対しては、職員全員が把握し対応している。入り口に意見箱を設置し、入居時に公共の苦情相談窓口があることを説明している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に入り、回覧板やごみ当番など地域の役割を担っている。老人会長は住まいが近く、漬物を持って来られたり、野菜作りをされている会員さんがキャベツ、大根、人参など収穫物を差し入れるなど老人会との交流も多く、行事への参加などもなされている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	街中の立地を生かし、買い物や散歩に頻繁に出かけている。地域との関わりも深く、行事なども積極的に参加している。「元気に過ごす住まい」の理念のとおり、利用者はその人らしく生き生きと生活している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「元気に過ごす住まい」を理念に、職員一人ひとりに積極的な取り組みが見られる。理念が目につくところに掲げられ、職員の名札の裏にもつけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板や、ごみ当番での関わりを持っている。老人会との交流も持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが評価の重要性を理解し、今回の評価に対しても全員でチェックをしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、定期的に行われており、家族や地域住民の意見を聞き、対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に「たより」を作成し、市町村担当者へ届けたり、相談に行ったりしている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	ユニット会議の際勉強し、家族への説明もパンフレット等を利用している。		現在、実際に成年後見人を利用している方はいないが、する必要がある利用者がおられるとすることで今後の活用に期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来所時は十分な会話を持ち、定期的にたよりの報告をしている。個人から預かっているお金についての出納は、領収書のコピーを家族に送り報告している。職員の異動に対する報告は入職時はしているが、退職時はしていない。		職員の異動については、退職の場合でも利用者や家族に報告することが望まれる。
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在まで苦情の申し入れはないが、意見箱を玄関に設置したり、アンケートを行ったりして意見をくみ上げている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	単独の事業所であるので異動はないが、離職については初期に数名あった。それによる利用者へのダメージはあまり見られない。		職員退職の場合は、利用者や家族にも報告をし、また離職者が極力出ないような対応に期待する。
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用に関しては、男女の別、年齢の制限は行っており、採用した職員には資格取得の支援などを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重に関しては会議や、朝夕の申し送りの際に話し合っているが、勉強会や研修への参加はしていない。		今後、勉強会を持ったり、研修に参加したりすることが望まれる。
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で行われている勉強会に参加し、事業所に持ち帰り、全員の学習につなげているが、定期的あるいは計画的な勉強会はしていない。		今後は勉強会が定期的に行えるよう、計画を持って取り組むことが望まれる。
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市内のグループホーム部会に参加し、交流を進めている。		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、日帰りや一泊体験での利用を行っている。見学も随時受け入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や裁縫など一緒にしながら、お互いの学びにつなげている。職員も利用者との交流の中でいろいろ勉強になることが多く信頼関係を築けるよう努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とその家族の意向を大切にした支援を心がけている。利用者が希望することに対しては出来るだけ迅速に対応することを心がけている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人や家族から十分話を聞き、本人の生活歴なども考慮しながら、計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は目に付くところにあり、職員は意識して対応している。変化時や、新たな問題が発生した際は、会議や申し送りで話し合い、計画を作り直している。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のしたいことには柔軟に対応するよう心がけている。受診、入院などには個々の状況に応じて対応する。遠方からの家族の来訪には部屋に泊まっていたりなどのサービスも行っている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の入居前のかかりつけ医を継続している。事情により継続できない場合は、協力医療機関に情報提供し変更している。受診介助は定期的になされ、結果は職員の共通認識となるようきちんと申し送りしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>現在看取りまで行った利用者はいないが、本人や家族の希望に沿って対応していく心構えはできている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
23	52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者への言葉使いはよく、情報の保管、廃棄もきちんとしている。</p>		
24	54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員は利用者のペースに合わせ、自宅と同様自己決定での生活を支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
25	56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>米を研いだり、おやつ作りを一緒に行ったりして楽しい食事をしている。配膳や片付けは利用者が積極的に行っている。</p>		
26	59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は二日に一度、午後になされているが、利用者の希望や汚染時には随時対応している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や、配膳など利用者とともに行き、習字や歌の練習で利用者の特技を伸ばしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者が外出の希望があるときは速やかに対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけず、エレベーターも動かしている。人の出入りについてはチャイム(センサー)で確認している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署からの講習は受けているが、実際の避難訓練や、心肺蘇生法の訓練はまだ受けていない。避難場所はスタッフ全員把握している。		今年は11月に避難訓練の予定があるとのことだが、今後も定期的に訓練を重ねることが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとり、毎日記録され、食事や水分の摂取量を把握している。食事は一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、季節の装飾がなされ、和やかな空間が作られている。気になるにおいや空気のよどみはなく、心地良い音楽が流れている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、入居者の持ち込んだ家具でその人らしい部屋作りがなされている。仏壇を持ち込んでいる入居者も数多く見られる。		